

collab
collective

ロジクール Rally Board 65の ファーストインプレッション

現代の職場に適した柔軟なビデオコラボレーション



ハイブリッドワーカーに適したスペースを再考

今日の職場は、柔軟性にその特徴があります。オープンなレイアウト、共有デスク、ハイブリッド型の勤務形態、および常に進化するスペースの活用方法は、もはや当たり前のこととなり、例外なことではなくなっています。

施設管理部門とIT部門は、こういった進化に対応する必要性に迫られています。これらの部門は、世界的な混乱、従業員の期待の変化、テクノロジー投資に対する監視の強化などに長年対応してきましたが、今や新たな課題に直面しています。それは、より少ないリソースでより高い期待に応えつつ、どこにいてもコラボレーションできるようにすることです。

その結果、会議用に使うことが想定されていないスペース（カフェ、ラウンジ、廊下、ちょっとした打ち合わせ用スペースなど）が、チーム協業のために臨時で転用されています。一方で、オフィスの物理的なレイアウトは進化しているものの、コラボレーションを支えるテクノロジーは、その進化に追いついていません。

ギャラップ社の調査によると¹、リモートワークが可能な従業員10人中5人が、ハイブリッドワークを希望しています。そして経営陣の回答も明白です。CEOの87%が、ハイブリッドコラボレーションをサポートするテクノロジーへの投資を計画していると回答しています。²



10人中5人

のリモートワーク可能な従業員が、ハイブリッドワークを希望。

87%

のCEOが、ハイブリッドでのコラボレーションをサポートするテクノロジーへの投資を計画していると回答。

問題は、従来の AV システムが常設型の会議室向けに設計されていたことです。そういった会議室には、恒久的な設置や継続的なメンテナンス、多くの場合、現場での IT サポートが必要です。このモデルは、ハイブリッドワークが主流の環境では拡張がありません。

そこで登場したのが、ロジクール Rally Board 65です。現代の柔軟性を考慮して設計されており、あらゆるスペースで、AV 機器の専門知識を必要とせずに、高品質のビデオコラボレーションを実現します。利用率の低いエリアをコラボレーション対応の環境に変えることで、組織は不動産をより有効に活用しつつ、全従業員の体験を向上させることができます。

本ファーストインプレッション、Rally Board 65が今日の進化するコラボレーション環境にどのように適合するかについて、IT 部門や施設管理部門の責任者に理解を深めていただくために作成しました。私は独立系アナリストとして、組織が直面する課題と、このソリューションが実際のニーズとどのように合致するかについて、調査に基づいた観点から解説するためにこの記事を書きました。この資料の目的は販売することではなく、検証することです。つまり、この製品の付加価値はどこにあるのか、より詳細に検討する価値がある理由を、明確かつ実用的な観点から説明します。



問題点：コラボレーションをあらゆる場所で行いたいがそれができない

ハイブリッドワークが急速に普及する中、IT 部門や施設管理部門の責任者たちは、多様化する環境において、拡張性と一貫性を備えた直感的に使えるビデオコラボレーション体験を提供する必要性に強く迫られています。

多くの組織では、会議室のほとんどにビデオ対応機能が備わっていません。この傾向は、AV機器を導入していないオープンエリア、共有ワークスペース、またはサテライトオフィスで顕著です。コラボレーションを行う可能性のあるすべてのスペースにビデオ対応機能を備えると費用が高くなる可能性があります。これらのスペースの用途が不明確な場合は特にそうです。設備が整っていないゾーンでは、コラボレーションとイノベーションの機会を逃してしまいます。

特にサテライトオフィスは大きな課題を抱えています。現地にIT部門の担当者が常駐しないことが多いこのような場所には、導入が簡単

で、リモートで管理できるビデオソリューションが必要です。従来の AV システムは、複雑な配線、カスタム設置、継続的なサポートを必要とするため、こういった環境では現実的ではありません。

従来の AV システムは、複雑な配線、カスタム設置、継続的なサポートを必要とするため、このような環境では現実的ではありません。

施設管理部門は、独自の制約に直面しています。従業員体験の向上と、不動産の床面積の削減を同時に実現する必要に迫られつつ、恒久的に設置する設備を必要とせずに、あらゆるスペースを即座にコラボレーションに適したものに変わるソリューションを必要としています。

こうした問題は時間の浪費、ユーザーの不満、サポートコストの上昇につながります。ハイブリッドワークが進化を続けるなか、すべてのスペースにシームレスなビデオコラボレーションを備えられないことが、ビジネス上の極めて重要な制約となりつつあります。

以下の課題は、あらゆる業界で共通しています。

- II 会議室ごとに異なる会議体験
- II 継続的なサポートとトレーニングを必要とする AV システム
- II スペースの利用状況に関するデータや問題発生時のデータの不足
- II 柔軟なプラグ&プレイ対応ツールへの需要の高まり

アナリストの視点 職場の風景は今までとは違います。 AV 機器戦略も違って当然です。

仕事をする場所は、もはや決まったデスクや個室に限定されるものではありません。スペースの利用方法は変化しており、IT 部門や施設管理部門の責任者にかかる期待も変化しています。以下のインサイトでは、従来型の AV 機器設備が合わなくなった理由、そして、より適応性が高く管理しやすいソリューションが急務となっている理由を明らかにしています。

後戻りはできない

柔軟な働き方に移行する傾向は今後も続くでしょう。一部の有名企業がリモートワークの方針を取り消していますが、全体的な方向性は明らかです。ロバート・ハーフ社が2025年に行った600万件以上の求人情報の分析³によると、2023年から2024年にかけて、100%出社の仕事が83%から60%に減少しました。同じ期間中、ハイブリッドワークの求人は2倍以上になり、2023年初頭の9%から、2024年末までに約23%に増えました。

現在在籍中の従業員もこれを支持しています。ギャラップ社の調査によると、現在、リモートワーク可能な従業員10人中6人が、ハイブリッドワークを望んでおり、フルタイムのオフィス勤務への復帰を求めているのは10%未満です⁴。勤務形態の進化に伴い、それを支えるテクノロジーも進化しなければなりません。

導入とスペース有効活用

現代の職場は、もはや決まった部屋や予測可能な使用方法によって限定されるものではありません⁵。オープンなコラボレーションゾーン、タッチダウンスペース、利用率の低いサテライトオフィスは、ハイブリッドワークの生産性向上にとって不可欠なものになっています。課題は、従来の AV システムのほとんどが、こういった環境をサポートするように設計されていない点です。

すでに人手不足の IT 部門が、専任の技術サポートが配置されていない、拡大し続ける分散型スペースのネットワークを管理する責任を担っています。そういった観点からも、ソリューションには、導入が簡単でリモートで管理しやすく、

AV機器の専門知識がなくてもすぐに使用できるものがが必要です。

一貫性も重要な問題です。注目度の高い役員会議室、カフェの一角を改装したスペース、あるいはリモートオフィスなど、どこにいても、ユーザーは同じシームレスなビデオ体験を期待します。エンタープライズグレードの品質をコンシューマーレベルの使いやすさで実現することは、今や「あれば助かること」から変わり、クリアすべき必須要件になりました。

スキル不足は現実の課題

IT 部門に負担がかかる理由は、単なる運用上の問題ではなく、構造的な問題です。IDC の2025年の報告によると、IT 部門の責任者の約2/3が、技術スキルの不足がビジネス目標の未達成やサービスの低下につながっていると回答しています⁶。IDC の予測によると、2026年までには組織の90%がスキル不足の影響を受け、機会損失は推定で5.5兆ドルになります。

同時に、企業は柔軟なワークスペースへの取り組みを強化させています。JLL社の Future of Work（働き方の未来）の調査によると、柔軟なスペースに大きく依存する米国企業の割合は、2022年の17%から2025年には59%に上昇すると予測されています⁷。つまり、AV機器ソリューションもこれに適応する必要があります。柔軟性があり、移動可能で、一元管理でき、専門家でなくても使いやすいものでなければなりません。そうでないと、次世代の職場のニーズを満たせなくなります。

Rally Board 65のご紹介：柔軟性と使いやすさを追及した設計

ロジクール Rally Board 65は、柔軟なワークスペースの実現を目的に作られた一体型ビデオコラボレーションのソリューションです。その中核となるのは、65インチのUltra-HD タッチスクリーンです。このスクリーンに、インテリジェントな4Kビデオ、ビームフォーミングオーディオ、マルチタッチホワイトボード機能が1つのスリムなデバイスに統合されています。



複数の導入モード（Android、PC、単一ケーブルによるBYOD）をサポートしているため、IT部門はさまざまなプラットフォーム要件やユーザーの好みに柔軟に対応できます。常設の会議室環境であっても、オープンスペースであっても、Rally Board 65はその環境に適応します。

オプションのロジクール Cart（移動式スタンド）と組み合わせると、自由に移動させることができ、数分で設置できます。会議室スペース、トレ

ーニングルーム、あるいはオープンエリアなどに導入することができます。壁面への取り付け、テーブル上への設置など、従来通りの設置方法にも対応しています。

システムのフリップ機能によって、部屋のレイアウト、作業内容、または目線の高さに応じてカメラ位置を上下に変更でき、幅広いユースケースに適應するさらなる柔軟性を提供します。

RightSight 2による参加者の的確なフレーミングやRightSound 2による音声の聞き取りやすさ向上など、AIによる高度な機能が、あらゆるスペースでプロフェッショナルグレードの体験を生み出します。また、近日導入予定のイノベーション技術である Depth Blur と Mic Zone は、オープンな環境における視覚的・聴覚的な妨げを最小限に抑えるように設計されており、ハイブリッドチームは場所を問わず集中できる高品質な体験を実現できます。

Rally Board 65では、ペアリングや充電が不要なデュアルパッシブスタイラスを使うことで、アイデア出しやホワイトボード利用の作業の際に迅速で効率的なコラボレーションを可能にします。タッチ操作が可能で、ロジクール Sync によってリモートで簡単に管理が可能、簡単にプラグ&プレイで使用できるよう設計されているため、IT部門のサポートが限られている、またはまったくないスペースでも最適です。



ロジクールポートフォリオにおける位置づけ

Rally Board 65の魅力は、ロジクールの既存のポートフォリオを、置き換えを行わずに拡張できる点にあります。これは、常設型の会議室ベースのシステムと新たなニーズ（移動可能で柔軟性の高いコラボレーション環境）の間にある明らかなギャップを埋めるものです。**これを冗長性ではなく、使用可能範囲の拡張で実現します。**

Rally Bar と Rally Bar Mini は、モジュール型で拡張性に優れた構成のAV機器設計適合する従来の会議室にとって優れたソリューションです。Rally Board 65は、これとは異なる方向性を採用しています。ディスプレイ、ビデオ、オーディオ、タッチインターフェイスを一体化したデバイスとして設計され、使いやすさとスピードを重視し、従来の定型的な部屋の枠にとらわれないスペース向けに設計されています。

多数のコンポーネントを管理せずに、複数の場所における一貫性を求めている組織にとって、この一体型のアプローチは最適です。ディスプレイ、カメラ、スピーカー、コントロールパネルを個別に用意する必要はありません。そのため、簡単に導入できるだけでなく、特にサテライトオフィスやリソース不足の環境での長期的なサポートの負担を軽減することができます。

同様に重要な点として、Rally Board 65は単体で完結するソリューションではありません。これはロジクールの幅広いエコシステムにうまく適合します。Tap（スケジュール管理と会議コントロール）、Sync（リモート管理）、Spot（会議室の使用率に関するインサイト）と組み合わせることで、包括的なコラボレーション戦略を構成できます。また、Zoom、Microsoft Teams、Google Meet などの主要なプラットフォームの認定を受けており、どのプラットフォームにも妥協なく対応可能です。

新しいスペースへの新規導入であっても、既存のスペースの更新であっても、Rally Board 65はロジクールのポートフォリオを補完して、以前は対応しきれなかった場所での一貫性を実現します。今までと同じ設計理念（使いやすさ、管理のしやすさ、高い信頼性）を、今日の働き方に合わせた新たな導入モデルへと拡張しています。



ソリューションの特長

Rally Board 65が提供する付加価値

Rally Board 65は、さまざまなスペースで簡単にビデオコラボレーションができるように設計されています。IT 部門、施設管理部門、そして毎日使う人々に対して、Rally Board 65 がどのような付加価値を提供するかを説明します。



数分で導入可能

セットアップが簡単な専用梱包で出荷され、サイドボード用の脚は梱包されたまま取り付けることができます。電源と Ethernet を接続するだけで利用可能。AV機器の専門知識は不要です。

|| リモートオフィスや小規模な IT 部門に最適です。



インテリジェント機能を備え、移動可能

ロック機能のあるキャスター付きの移動式スタンド（オプション）、カメラ位置は上/下に変更可能。オープンスペースや多目的の会議室に最適な柔軟性と安定性があります。

|| 妥協することなく、必要な場所にシステムを移動可能。



オープンで柔軟なスペース向けに設計

従来の会議室と AV機器設備のないオープンスペースの両方に最適です。

|| 使用率の低いスペースを生産性の高いコラボレーションゾーンに転換。



会議に集中できる環境を構築

Camera Zone、Depth Blur、および近日導入予定の Mic Zone などの AI 駆動の機能によって、会議中の集中を妨げる要因を最小限に抑え、参加者を自然にフレーミングできます。

|| 混雑した環境や騒がしい環境でも、プロフェッショナルなビデオ体験を実現。



AV機器 + タッチコラボレーション一体型

マルチタッチ入力、フルレンジスピーカー、ビームフォーミングマイクを搭載した、65インチ4K UHD タッチスクリーン。パッシュスタイラスを同梱。

|| ホワイトボード機能からビデオ会議まで、豊かなコラボレーションを実現。



リモート管理とインサイト

ロジクール Syncにより、ゼロタッチプロビジョニング、リモートコントロール、および使用状況、温度、空気質のデータへのアクセス、ならびに多目的会議室の管理が可能になります。

|| すべての場所を一元管理できるため、現場訪問の頻度が減少。



認定済みでプラットフォームを問わない

Android、PC、BYOD モードを使用した、Microsoft Teams、Zoom、Google Meet で動作します。

|| 主要プラットフォームで、シームレスなプラグ&プレイの互換性を確保。



サステナブルなデザイン

最大41%のポストコンシューマーリサイクル（PCR）プラスチックを使用して製造され、レーザーベースのスリープモードと無線（OTA）アップデートの機能を備えています。

|| IT 部門とサステナビリティ部門は、よりサステナブルな調達により、スコープ3の目標達成を推進できます。

「Rally Board 65は、壁内に配線済みの専用スペースだけでなく、あらゆるスペースをビデオ対応にします。」

The Collab Collective の主席アナリスト、Craig Durr

結論

アナリストによる Rally Board 65の見解

Rally Board 65は、ハイブリッドワークを推進している組織が今日直面している最も喫緊の課題の多くに対応します。導入から適応性まで、**ロジクールは、今日の働き方に合わせて特別に設計されたソリューションを提供しています。**

本書の冒頭で述べたように、コラボレーションテクノロジーはもはや優先度の低い課題ではありません。経営幹部が注目し、予算を投入するようになってきています。Salesforce社の調査によると、企業経営者の86%は、職場の失敗の原因が協力的なチームワークの不足にあると考えているとのこと。選択を間違えた場合の代償は、ハードウェアコストだけにとどまりません。企業文化、生産性、人材の定着率にも影響します。

一体型フォームファクターの Rally Board 65は、パフォーマンスを犠牲にすることなく柔軟性を提供します。これは、様々な環境で柔軟な分散型のコラボレーションを行う必要性のあるチームに最適です。

アナリストの視点で見ると、**ロジクールがここで実現しているのはバランスです——つまり、IT 部門によるコントロールと、エンドユーザーにとっての使いやすさのバランスです。**Rally Board 65では、効率的なセットアップとサポートを実現することでIT部門の負担を軽減する一方で、従業員には直感的に使える高品質の体験を提供します。サテライトオフィスでも本社の会議室でも、同じように自然にお使いいただけます。

最終的なポイント

Rally Board 65は以下を提供します。

- || あらゆるスペースに対応可能なプロフェッショナルグレードの AV 性能を備えたモバイルコラボレーションデバイス
- || 分散した組織全体に拡張可能な、容易な導入とリモート管理
- || 集中できる環境構築可能な、AI駆動の機能を備えた未来対応型プラットフォーム。進化する職場ニーズに対応



一体型フォームファクターの Rally Board 65は、パフォーマンスを犠牲にすることなく柔軟性を提供します。これは、様々な環境で柔軟な分散型のコラボレーションを行う必要性があるチームに最適です。

Rally Board 65が他と一線を画す点は、単に仕様だけではなく、その優れた実用性にあります。Rally Board 65は、今日の職場の実際の状況に対応するエンタープライズグレードのAV機器システムをプラグ&プレイ形式で提供します。Microsoft Teams、Zoom、Google Meet の認定済みであり、RightSight や RightSound などの AI 機能や、Mic Zone や Depth Blur などの今後の機能強化により、Rally Board 65は IT 部門が現代のコラボレーションシステムに求めるべき基準を一新するものとなります。

働き方の変化と IT 部門が担う職責範囲の拡大が進みつつある状況下において、Rally Board 65は単なるビデオデバイスではありません。これは、ハイブリッドワークの現実に対応する戦略的プラットフォームです。ますます多様化するあらゆるスペースにおいて、AV機器の専門知識を必要とすることなく、一貫した高品質のコラボレーション環境をIT部門が提供できるプラットフォームです。今日のニーズを満たすだけでなく、今後企業が直面する課題にも十分に対応することができます。

¹ Keying, Raymond J. 「GALLUP：リモートワークに関する従業員の考え方と環境設定。」 小規模事業・アントレプレナーシップ委員会、2024年12月17日、<https://sbecouncil.org/2024/12/17/gallup-employee-views-and-preferences-on-remote-work/> 2025年5月26日にアクセス。

² 「ハイブリッドワークが促す大規模なテクノロジー投資 - CEO の調査。」 IWG、2024年1月10日 <https://work.iwgplc.com/MediaCentre/PressRelease/hybrid-working-prompts-major-tech-investment-ceo-study> 2025年6月18日にアクセス。

³ 「2025年リモートワークの統計と傾向。」 Robert Half、2025年2月20日、<https://www.roberthalf.com/us/en/insights/research/remote-work-statistics-and-trends> 2025年5月26日にアクセス

⁴ Keying, Raymond J. 「GALLUP：リモートワークに関する従業員の考え方と環境設定。」 小規模事業・アントレプレナーシップ委員会、2024年12月17日、<https://sbecouncil.org/2024/12/17/gallup-employee-views-and-preferences-on-remote-work/> 2025年5月26日にアクセス。

⁵ コラボレーションスペースの4タイプ。Haworth、2019年、<https://www.haworth.com/n/en/spark/articles/2019/4-types-of-collaboration-spaces.html> 2025年6月18日にアクセス。

⁶ 「IT スタッフ不足が最終的な収益に悪影響：IDCレポート。」 CIO、2025年2月20日、<https://www.cio.com/article/2108474/it-staff-small-damage-the-bottom-line-idc-report.html> 2025年5月26日にアクセス。

⁷ 「世界の柔軟なワークスペース市場の動向。」 Acuity Knowledge Partners、2024年8月27日 <https://www.acuitykp.com/blog/global-flexible-workspace-market-trends/> 2025年5月26日にアクセス。

会社情報



Craig Durr 氏は、職場のコラボレーションとコミュニケーションに重点を置いた業界アナリスト企業、The Collab Collective の主任アナリスト兼創立者です。Craig 氏は、アナリスト、研究者、基調講演者として活動する中で、企業、従業員、顧客の間でシームレスなつながりを可能にするサービス、テクノロジー、およびデバイスに関するインサイトを深めてきました。

テクノロジー以外にも、仕事における複雑な人的側面についても調査し、得られた知見を、労働力、職場、現代の業務体験のワークフローに分類しています。これらの要素を明らかにすることで、未来の職場に不可欠なテクノロジー、生産性、およびビジネス戦略の間の複雑な相互作用の解明に貢献しています。

 cdurr@collab-collective.com

 [craigdurr](https://www.linkedin.com/in/craigdurr)

 [@craigdurr](https://twitter.com/craigdurr)



職場のコミュニケーションとコラボレーションの進化する環境について、データに基づいた分析と、現在のハイブリッド環境を形作る労働力、職場、ワークフローに関する高度な知識を組み合わせ、深いインサイトを提供します。当社のアナリストは、職場のコラボレーション、顧客体験、従業員体験のテクノロジー、そして創造性とワークフロー管理のための企業アプリケーションの専門家であり、これらのソリューションが実際の業績にどのように貢献するかについて包括的な理解を提供します。

 www.collab-collective.com



ロジクールは、ビジネスの成功に貢献し、仕事や制作、ゲーミング、ストリーミングにおいて、人と人をつなげるソフトウェア対応のハードウェアソリューションを開発しています。当社の使命は、人々とデジタルの世界を結ぶ接点として、人々と地球に優しい方法で、仕事と遊びにおける人間の可能性を拡大することです。1981年に設立された Logitech International は、スイス連邦の株式公開企業であり、スイス証券取引所（SIX：LOGN）と NASDAQ Global Select Market（LOGI）に上場しています。ロジクールとビジネス製品、エンタープライズソリューションについて詳しくは、www.logicool.co.jp/business、当社の [ブログ](#)、[Logitech Business](#)、または [@LogitechBiz](#) をご覧ください。

 www.logicool.co.jp